Vol.2016-CE-135 No.5
2016/7/2

東京都高等学校の Web ページの現状と課題

北村美貴子[*1]　中谷多哉子[*2]　村上祐子[*3]　辰己丈夫[*2]

概要：すべての都立高等学校が Web ページを開設して 8 年になる。東京都は Web サーバーを導入したり、CMS を導入したりして、学校現場に負担の少ない管理運営をさせるような予算措置を講じ、後押しをしてきた。しかし、都立高等学校の学校 Web ページは必ずしも満足に機能しているとは言えない学校が少なからず存在する。そのような学校が減少し、いかなるステークホルダもある程度満足できる学校 Web ページを構築するために何が必要か明らかにしたい。

1. はじめに *

東京都にある都立学校のうち高等学校と中等教育学校（以下、簡単のため、都立学校と略す。東京都立学校には、他に特別支援学校が存在しているが、ここでは言及しない。）が生徒募集のために活用しているメディアの一つに、学校 Web ページがある。学校が行っている授業公開や学校説明会に参加している中学生やその保護者にアンケートを取ってみると、80% 以上が「本校を知るきっかけ」として、学校 Web ページと答えている。また、夏季に行われた学校見学会において、本校の見学会を知ったきっかけを尋ねると「本校の Web ページで知った人」は、75% に達する。

はたしてそのように多数の人が Web ページを閲覧しているのか、多くの人が閲覧している学校 Web ページの現状は、どのようになっているのか、改善すべきことはないだろうか、等を明らかにすることが必要である。

以下では、2. で都立学校の Web ページの現状について、3. では、学校 Web ページの広報用として機能しているかどうかを聞いたアンケート結果について、4. では、都立学校の Web ページのステークホルダについて、5. ではこれらの Web ページに診られる問題点について、6. では、考えられる対策について述べる。

2. 都立学校の Web ページ

東京都教育委員会が都立学校 ICT ネットワークシステムを利用して CMS を提供し始めたのが、2009 年 10 月であった。それ以降、段階的に学校 Web ページが開設され、その年の 12 月にはすべての都立学校に学校 Web ページが存在する形になった。

2.1 都立学校 Web ページの分類

都立学校の Web ページは大きく次の 3 つに分類される。

1. 学校独自に Web サーバーを調達し、独自に運営をしているもの。
2. 都立学校ホームページシステムを利用し、都立学校 ICT ネットワーク上のサーバーを利用しているもの。
3. 都立学校 ICT ネットワークシステム CMS を利用しているもの。

1. に該当する学校は少数で、中でも学校に Web サーバーを持っているところは 2 校のみである。残りの学校は、自立予算の中から、レンタルサーバー代を負担して利用しているところが 13 校である。（2016.04.19）

大部分は予算上の制約がない 2. と 3. に該当する学校である。

2.2 都立学校 Web ページの不都合な点

都立学校の Web ページ運用にあたっては、予算上の制約は感じられないが、少なからず不都合が生じている。

まず、2. 3. の都立学校ホームページシステムや CMS を利用している学校ともに共通していることであるが、ネットワークにアクセスできるのは、都立学校 ICT パソコンといわれるパソコンに限られている。各学校に学級数分配備されたパソコンを専用の LAN 回線につなぎ、そこからのみアクセスできるというものである。したがって、学校でしか Web コンテンツのアップロードができないことになる。緊急の連絡や、学校行事の情報などを素早く発信することは不可能である。

次に学校ごとの利用可能な容量が少ないことが挙げられる。2013 年 12 月までは各学校 100MB であった。動画や画像が多いサイトでは不都合が生じる。またアップロードしたファイルを削除することすらできない仕様となっており、情報更新に困難が生じる状況であった。現在では、各学校が両可能な容量は 300MB となり、各学校で決められた管理者は、不必要なファイルを削除することもできる権限を与えられた。しかし、ここで付与される管理者権限は、Web ページに関するすべての権限を持つものとなるため、通常は管理職に付与される。そのため、Web サーバー上の容量を、実際の Web ページ担当者が管理することはできない状況にある。それどころか、各学校の担当レベルでは Web サーバー上のファイルが削除できることを知らず、また各学校のファイルのサイズを知らない担当者すら数多く存在することになった。

3 の CMS 利用校の問題点として、テンプレートの数が 3 つであり、どの学校も似たような Web が多く存在することがあげられる。さらに問題なのが、あらかじめカテゴリーが 7 個決められており、そのきめられたカテゴリーを変更も削除もできない点である。

*1 東京都立竹早高等学校／放送大学大学院
*2 放送大学
*3 東北大学

ⓒ2016 Information Processing Society of Japan

図 1　普通学校用テンプレート 1

図 2　普通学校用テンプレート 2

図 3　普通学校用テンプレート 3

図 1 に普通学校用テンプレートを利用した例を示す。茶系でまとめられており、落ち着いた雰囲気をかもしだしている。しかし、利用校 28 校中画像の縦横比に明らかな異常がある学校が 15 校 54%ある。

図 2 に普通学校用テンプレートを利用した例を示す。ブルー系でまとめられていて、楽しい雰囲気である。しかし、図 1 と同様に利用校 50 校中画像の縦横比に明らかな異常がある学校が 21 校 42%ある。

図 3 に普通学校用 3 のテンプレートを利用した例を示す。オレンジ系でまとめられていて、すっきりした感じである。図 3 も図 1、2 と同様、利用校 24 校中画像の縦横比に明らかな異常がある学校が 7 校 29%ある。

3. 広報としての学校 Web ページ

3.1 入学希望者、その保護者へのアンケートから

2015 年 6 月 6 日に行われた東京都立竹早高等学校の授業見学会で、来校した入学希望者とその保護者に対してアンケートを取った。内容は次のとおりである。

1. 居住地はどこですか。
   - 3 学区
   - 4 学区
   - 5 学区
   - 6 学区
   - その他

2. 今回の授業公開は、どのようにして知りましたか。
   - 中学校の先生からの案内
   - 本校の生徒から
   - 塾の先生から
   - 本校の Web ページから
   - その他

3. あなたは本校への入学についてどのように考えていますか。
   - 第一志望
   - 滑り止め
   - 第二志望
   - まだ志望校を考えていない
   - 成績次第

4. 授業を見学して、本校への志望の度合いはどうなりましたか
   - ぜひ入学したい
   - 入ってもいいかな
   - どちらかというと入りたくない
   - 入りたくない
   - 何も感じない

5. 授業の難易度はどのように感じましたか。
   - ついていける
   - 頑張ればついていける
   - どちらかというとついていけない
   - ついていけない

ⓒ2016 Information Processing Society of Japan

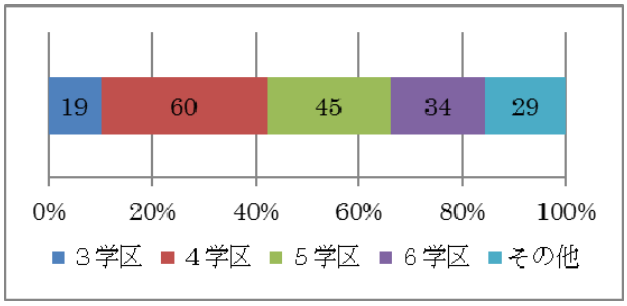

図 4　居住地

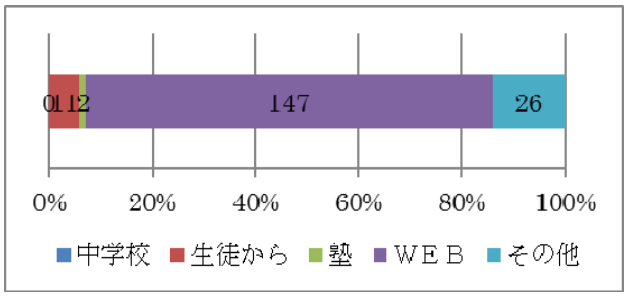

図 5　情報入手先

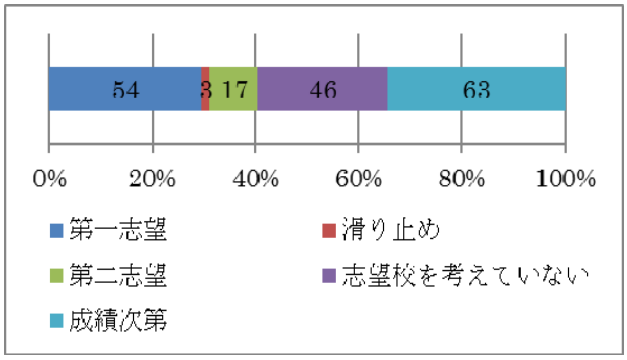

図 6　志望の度合い

図 4 に見学会参加者の居住地を示す。居住地は東京都が平成 15 年に学区制を廃止する前の枠組みで調査を行った。3 学区は、杉並、中野、練馬であり、4 学区は文京、板橋、豊島、北であり、5 学区は中央、台東、荒川、足立であり、6 学区は墨田、江東、葛飾、江戸川である。この割合は東京都立竹早高等学校の在籍者の割合とほとんど同じであることから、見学者は竹早高校を志望している生徒といえる。

図 5 に情報の入手先を示す。情報の入手先については、約 8 割の生徒保護者が授業公開の情報を学校 Web ページから入手していると答えた結果に違和感を覚える。

図 6 に志望の度合いの結果を示す。竹早高校を第一志望としている生徒は 3 割程度であり、6 割程度は成績次第であったり、志望校未定でとりあえず学校を見学に来たりした生徒であった。6 月という実施時期を考えると、1 学期の成績すら出ていない時期であり、また模擬テストもようやく始まったばかりであるということを考えても、中学 3 年

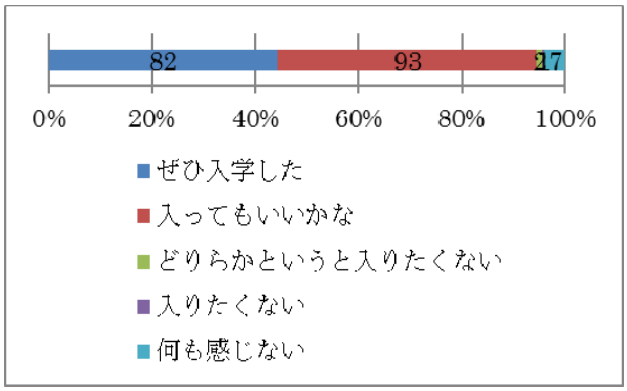

図 7　見学後の志望の度合い

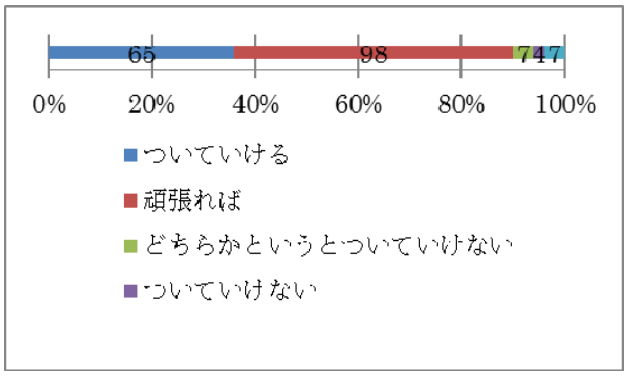

図 8　授業の難易度

生とその保護者にとって志望が固まっていない割合が高いのも当然であろう。

図 7 に授業を見学した後の志望の度合いを示す。授業見学後、竹早高校に進学する意思は強くなったようで、4 割以上の生徒が入学したいといい、5 割以上の人は、入ってもいいかなと消極的であるが、入学の意思が出てきたようである。

図 8 に授業についていけると思うか否かの結果を示す。

ついていけると答えた生徒は 4 割に届かない状況である。この結果、竹早高校に入学できる生徒は見学者のうち 4 割ほどであるといえる。

3.2　夏季学校見学会のアンケート結果から

2015 年、竹早高校における学校見学会参加者は 1,700 名ほどである。参加者に学校見学会をどこで知ったかというアンケートを取った。

アンケート内容

- 高校のホームページで知った人は①を
- 東京都のホームページで知った人は②を
- 高校のポスターや学校案内で知った人は③を
- 中学校や塾、友人などから聞いた人は④を
- その他の人は⑤をマークしてください。

図 9, 10 に夏季学校見学会参加者の情報収集先を示す。

6 月の見学会と情報収集方法が学校 Web ページである割合がほぼ同程度である。

ⓒ2016 Information Processing Society of Japan

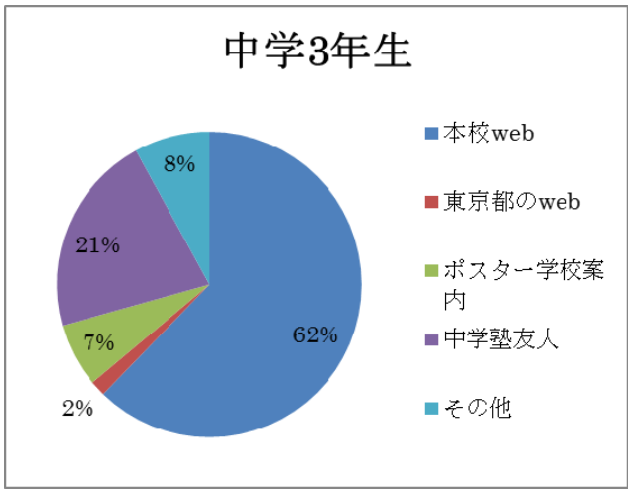

図 9　夏の見学会・中学生の情報入手先

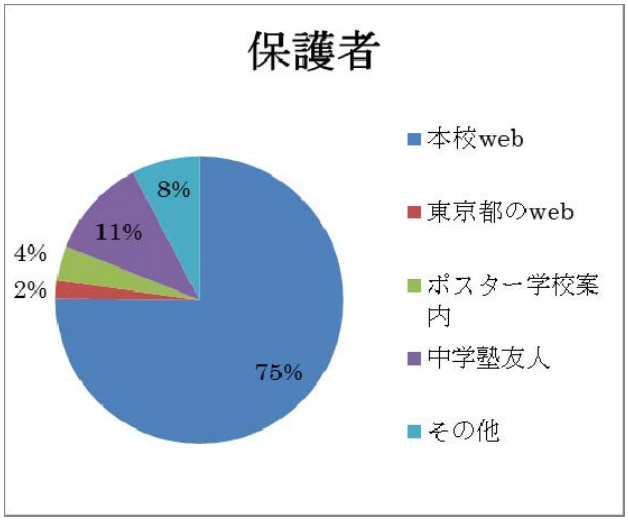

図 10　夏の見学会・保護者の情報入手先

3.3 入学している生徒へのアンケートから

2015 年 9 月、竹早高校の 1 年生にアンケートを取った。質問項目を以下に示す。

Q1. 竹早高校を知ったきっかけはなんですか？（主なものを１つ）
Q2. 竹早高校をいつごろ知りましたか？
Q3. 竹早高校を見学に来ましたか？
Q4. 本校を見に来た人は、以下の質問に答えてください。
Q5. どのような機会に来ましたか（複数回答可）
Q6. 上記のような情報はどのようにして得ましたか？（主なものを１つ）

表 1　学校を知ったきっかけ

	男子		女子	
中学校の先生	12	10%	5	5%
塾・予備校	29	23%	16	15%
先輩・知人	22	18%	20	19%
進学ガイド	20	16%	14	13%
竹早高校のWEB	5	4%	2	2%
親・兄弟	26	21%	38	35%
学校説明会	6	5%	6	6%
その他	5	4%	7	6%
	125		108	

表 2　学校を知った時期

	男子		女子	
中学１年生の時	14	14%	21	21%
中学２年生の時	37	36%	34	34%
中学３年生の時	49	48%	35	35%
その他	2	2%	9	9%
	102		99	

表 3　学校見学の有無

	男子		女子	
来た	88	84%	97	96%
来なかった	17	16%	4	4%
合計	105		101	

表 4　学校見学の時期

	男子		女子	
平日午後の学校見学会	7	6%	8	7%
夏休みの見学会	35	28%	41	38%
授業公開（6月）	5	4%	5	5%
文化祭	36	29%	53	49%
授業公開（10月）	6	5%	13	12%
学校説明会（10月）	31	25%	32	30%
体験授業（11月）	7	6%	16	15%
学校説明会（11月）	22	18%	21	19%

表 5　情報の入手先

	男子		女子	
中学校の先生	7	7%	8	8%
塾･予備校	10	10%	7	7%
先輩･知人	3	3%	4	4%
進学ガイド	12	12%	7	7%
本校のWeb	54	53%	61	59%
親･兄弟	16	16%	16	16%
	102		103	

ⓒ2016 Information Processing Society of Japan

表 1 に竹早高校を知ったきっかけを示す。竹早高校を知ったきっかけは塾や親兄弟、中学校の先生、進学ガイドなど多岐にわたる。学校 Web ページと答えたものは少数であった。

表 2 に竹早高校を知った時期を示す。中学生が上級学校を意識し始めた時期、具体的には中学 2, 3 年生であり、子供のころから知っていた生徒は少数であった。

表 3 に竹早高校を見学に来たか否かを示す。かなりの生徒が実際に見学に訪れている。竹早高校の特徴として、推薦入学試験の倍率の高さがある。入学志望であるため、受検の機会を増やそうというものである。そのため、学校を実際に見学して、入試に備えようというものであろう。

表 4 に竹早高校にどのような機会に来たかを示す。見学会や説明会以外にも文化祭への見学が多い。竹早高校は体育祭を一般公開していないので、生徒の行事を見学する機会は文化祭だけだからだろう。

表 5 に情報の入手方法を示す。学校 Web ページからの情報入手が過半数を占めているのが分かる。

情報の入手が学校 Web ページである割合が過半数を占める理由を生徒にインタビューしてみた。

- 最初の模擬テストの結果で、どんな学校が学力のランクに適しているか出てくるので、それを見て調べるのに使った。
- 文化祭の詳細を知るのに利用した。
- 進学ガイドで、制服がなく、都立の共通問題であるところの学校 Web ページをすべて見た。
- 塾の先生に学力にあった学校として紹介されたので、学校 Web ページを見た。
- 中学校の先生に勧められた。
- 他の学校を考えていたけど、都立学校合同進路説明会で担当の先生が気に入らなかったので、優しそうな先生の学校を調べるのに使った。
- 親の卒業した学校なので、どんな所か調べた。

などが出てきた。最初から Web ページを調べているのではなく、補足情報や詳細な情報入手として利用していることが解った。

4. 都立学校の Web ページのステークホルダ

学校 Web ページの閲覧者は誰であろうか。

表 6 に豊福1による学校広報の対象者を示す。学校広報の対象を、ステークホルダ（stakeholders:利害関係者）という。学校広報の対象者は広範囲であり、学校側から直接認識できる顕在的関係者には、内部組織の教育委員会だけでなく学校組織内の管理職や教職員も含まれている。そのほかに在校生やその保護者。学校という公共機関であるため、自治体や納税者も含まれる。そればかりか潜在的関係者として、外部関係者としての地域社会や市民、間接関与者としての保護者以外の家族や入学希望者、卒業生、一般社会人などおよそありとあらゆる人が学校広報の対象者として考えられる。しかし Web ページの作成に当たり、担当者が意識しているのは就学者と家族、それに入学希望者や近隣住民ぐらいである。そしてまた、それぞれのステークホルダごとに興味関心の違いから閲覧する内容は異なっていると考えられる。

1豊福晋平. (2016). 自ら語れば学校はもっと愛される. プラネクサス.

表 6　学校 Web ページの閲覧者 [豊福晋平, 2016]

内部組織	教育委員会・管理職・教職員	顕在的関係者
コスト負担	自治体・納税者	
就学者と家族	児童生徒・保護者	
外部関係者	地域社会・市民	潜在的関係者
関節関与者	保護者以外の家族・転入希望者・卒業生・一般社会人	

4.1 都立学校 CMS のカテゴリーとステークホルダ

都立学校 ICT ネットワークシステム CMS で設定されたカテゴリーとそれぞれのステークホルダの興味関心をまとめてみると次のようになる。

表 7　カテゴリーとステークホルダの関心

	校長から	学校紹介	入学案内	学校生活	学習について	経営企画室から	卒業後の進路
教育委員会	◎		◎		◎		
管理職	◎	◎	◎	◎	◎		◎
教職員			◎				◎
自治体	◎						
納税者	◎			○			
生徒				◎	○		◎
保護者	○			◎	○	○	◎
地域住民・市民	○	○		○		○	
保護者以外の家族	○	○		◎	○		○
入学希望者		◎	◎	○	◎		◎
卒業生	○	○		○		◎	○
一般社会人	○			○			

表 7 に都立学校 CMS のカテゴリーとステークホルダの興味関心を示す。これは都立学校 ICT ネットワークシステム CMS で定められている固定カテゴリーとステークホルダとの関係をまとめたものである。

ⓒ2016 Information Processing Society of Japan

固定カテゴリーの分類を詳しく見るために新宿高校を例にとる。「校長から」のカテゴリーには、学校長挨拶、教育目標、新宿折々（校長所感）、学校経営計画、学校経営報告、学校経営、学校運営連絡協議会、管理運営規定、いじめ防止基本計画が入っている。そのため、教育委員会や管理職、各自治体、納税者等の閲覧が多いと考える。

学校紹介には、学校沿革、校歌、施設・校舎、生徒概況、所在地・アクセス、教育実習が入っている。そのため、管理職や入学希望者、卒業生などが閲覧すると思われる。なお、教育実習がこのフォルダに入っているのは、ほかに入れられる場所がないからであろう。

入学案内のフォルダには、学校説明会等の日程、学習塾対象学校説明会、入学選抜状況、自校作成入試問題、平成28年度入学者選抜、推薦に基づく選抜における検査の得点分布、平成28年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査進学重視型単位制高校グループ作成問題について、授業公開・学校説明会の様子が入っている。そのため教育委員会や管理職、教職員、入学希望者の閲覧が多いと思われる。

学校生活のフォルダには、年間行事、生活指導、学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特色ある教育活動、奉仕活動、学校感染症による欠席について、台風の接近に伴う臨時休業規定、平成28年度トピックスが入っている。したがって、管理職や生徒、保護者や保護者以外の家族、その他多数の人が閲覧する内容と思われる。

学習についてのフォルダには教育課程編成表、選択科目一覧、きめ細やかな指導、年間授業計画、学力スタンダードが入っている。したがって教育委員会や管理職、入学希望者などがよく閲覧すると思われる。

経営企画室からのページには学校開放事業、在校生の証明書発行について、卒業生等の証明書発行について、学校納付金、予算概況、証明書の発行、公開講座が記載されている。そのため卒業生のアクセスが多いと思われる。

卒業後の進路のページには新宿高校の進路、大学合格者実績、先輩から、進路講演会、キャリアガイダンス、高大連携・出張講義、平成27年度合格速報会がはいいている。そのため、管理職や教職員、生徒、保護者、入学希望者の閲覧が多いと思われる。

学校紹介や経営企画室からのページに記載される内容の多くは変更の少ない条項である。学校紹介のページに記載される内容として、学校の正式名称、所在地・電話番号、アクセス、校歌、校章、学校の沿革、施設・校舎などよほどのことがない限り変更のない項目である。生徒概況は伝度によって多少異なるため、年に1度の更新が必要となる。また、校長からでは、学校長が異動になれば、学校長写真・挨拶、教育目標・経営方針が変更になろう。経営企画室からのページは、各種届出について、手数料や発効までの日数、様式などが載っているが、条例の変更がない限り変更の必要がないページとなる。入学案内、学校生活、学習について、卒業後の進路については適宜更新の必要があるページとなる。

5. 都立学校 Web ページの問題点

都立学校の Web ページを調べてみると数々の問題点が浮上する。

5.1 学校現場にスキルが不足している

Web ページを担当する教師の中に、簡単なコンピュータに関する用語を理解することができない人が数多く存在している。したがって、ファイル形式や、細かな指定をされてもそれを指示通りに行うことができない場合が多い。これは、CMS で作られた Web ページに掲載されている写真の縦横比が狂っているものが多いことを見ても明らかである。 [NTT ネットワーク, 2009]2によると、新規作成段階で自校の情報を入力するとき、学校画像、校章画像の設定をする必要がある。そこに記載されている内容は、以下のとおりである。

- jpeg, gif, png, bmp のいずれかの形式の画像ファイルを選択できます。
- 縦横のピクセルが以下のサイズを超える学校画像の場合、強制的に以下のサイズに変更されて表示されます。

デザイン名	横サイズ（ピクセル）	縦サイズ（ピクセル）
普通学校用 1	400	115
普通学校用 2	900	295
普通学校用 3	600	210

- 校章画像の推奨サイズは横 30～40 ピクセルの正方形です。縦横のピクセルが 40 ピクセルを超える校章画像の場合、強制的に縦 40 ピクセル、横 40 ピクセルのサイズに変更されて表示されます。

写真のサイズは縦○ピクセル、横△ピクセルとする。という意味が理解できていないのである。そのため、CMS を利用している学校のうち普通学校用 1 を利用している学校では 53%が、普通学校用 2 を利用している学校のうち 42%が普通学校用３を利用している学校のうち 29%が明らかに写真の変形が見られ、信頼性を損なう印象であった。それに比べて CMS を利用しない学校では、明らかな写真の変形は 1 校だけであった。（2015.12 月調査）

5.2 学校 Web ページに関心がない

学校現場では Web ページは好きな人がやればいいという意識が根強く残っている。そればかりか、管理職ですら

2 NTT ネットワーク. (2009 年 9 月). 都立学校 ICT ネットワークシステム CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）操作マニュアル.

ⓒ2016 Information Processing Society of Japan

学校 Web ページに関心がない人がかなり存在する。2016 年4月の定期異動で、校長が異動した学校59校を調査した。その結果、学校 Web ページの校長挨拶を 4 月第 1 週までに更新した学校は 20 校である。5 月の 6 日現在ですら 12 校が未更新であったことからも推察できるであろう。

平成 19 年に改訂された学校教育法には以下のような条文が追記された。

> 第 43 条 小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。
> 第 62 条 第三十条第二項、第三十一条、第三十四条、第三十七条第四項から第十七項まで及び第十九項並びに第四十二条から第四十四条までの規定は、高等学校に準用する。

Web ページは積極的に保護者や地域住民に情報を開示するための有効なツールである、という認識どころか、平成 19 年に改訂された学校教育法のこの条文の存在すら知られていないのである。

5.3 学校現場だけの問題なのだろうか

学校現場だけの問題であろうか。学校の教員の多忙化が長らく問題となっている。教員を多忙にすることなく、学校 Web ページを更新することはできないのであろうか。学校行事や部活、卒業生の進路実績など広報したい内容は各学校とも積極的に更新しているようである。ここで問題となるのが、教育委員会からの指定されたファイルのアップがある。例年、学校経営シート、経営報告、経営計画、学力スタンダード、年間授業計画、入試の倍率、入試における得点の分布、いじめ防止基本計画など多岐にわたる。

この問題点を洗い出すと次の 3 つである。

1. 担当者に指示文書が届かない。
2. 指示文書の配布ルートが異なる。
3. 指示内容が煩雑。

さて、教育委員会が指定している載せるべきファイルは Web に載せるだけでなく、提出を義務付けているものが多い。また、Web アップへの日時も指定されているものがある。入試の倍率など、受検生やその保護者は一刻も早く知りたい内容であろう。しかし、メディアへの発表後でないと載せてはいけないことになっており、都立学校 ICT の仕組みも考えると学校現場サイトで速やかなる対応は難しいと言える。

5.4 下部組織への分業構造

学校現場という教育委員会から見た下部組織に分業させて、指示通りの方法で文書が載せられるとは限らない。例えば、2016 年 3 月 9 日までに 2016 年推薦に基づく入試の面接点、作文・小論文点、実技点の分布表を掲載することになっていた。しかし、期日通りに Web ページに掲載した学校は調査した 167 校中 85 校であった。教育委員会からの再度文書が出されたが、3 月 20 日になってもなお 47 校が未掲載であった。同様のことが学校経営シートについても起こっている。4 月 28 日までに指示されたファイルを指定したシートを非表示にしてエクセルファイルとして掲載するように指示が出たが、調査した 175 校中、指示通りに行った学校は 59 校、ＰＤＦで掲載した学校が 62 校、54 校が未掲載であった。

教育委員会を依頼人、下部組織である学校を代理人と考えるとわかりやすい。一般に代理人は依頼人の意に添わず、自己利益の最大化行動をとるとされる。そのため依頼人は、自己にとって望ましい行動を代理人に取らせるための仕組みが必要となる。具体的には、代理人が依頼人の利益を追求しやすいような動機付けや制裁、あるいは依頼人による代理人に対する恒常的なモニタリングの実施、という方法が考えられるが、いずれもコストがかかるとされる。3その理論によれば、学校現場は、教育委員会からの依頼ではなく、各学校にとってやりやすい方法で学校 Web ページに情報を載せることになる。その結果教育委員会は恒常的にモニタリングを実施し、訂正を促していかなければならないことになり、それにはコストがかかることになる。

6. 対策として考えられること

東京都教育委員会は学校からの文書の提出方法として、フォルダを利用している。学校ごとに決められたファイル名を付け、決められたフォルダに、決められた様式で提出することになっている。したがって、教育委員会が Web にアップする必要と考えるものは、システム化してしまい、フォルダに提出されたものを、提出期限後に教育委員会のページにアップしてはどうだろうか。

すべての都立学校が前もってそのファイルにリンクを張っておけば、学校が間違った方法でアップすることもなく、またアップし忘れることもなくなる。管理職は提出期限に関しては、管理が行き届いているため不具合が減少すると考える[豊福晋平, 2016]。

図 11 にシステムに必要なフォルダを示す。

1. 各学校は Office のファイルを input_files フォルダに指定されたファイル名、通常は学校番号を付加し、指定のファイル名で提出する。
2. 教育委員会は該当のファイルがすべてそろっている

3高見　茂. (2010). NPM(New Public Management)の導入と行財政改革の新展開. 日本教育行政学会年報.

ⓒ2016 Information Processing Society of Japan

か否か確認をする。

3. そろっていたら、sh フォルダにはいいている officetopdf をダブルクリックする。
4. すると、PDF フォルダに PDF に変換されたファイルが出力される。出力した PDF を Web サーバーにコピーする。
5. あらかじめ準備されている教育委員会の Web ページに新しい情報がアップされる。

図 11　作成したシステム

```
#!/bin/sh

#input filesフォルダに移動。
cd ~/Desktop/tool/input_files
#LibreOfficeを使ってofficeのファイルをpdf
に変換する
/Applications/LibreOffice.app/Contents
/MacOS/soffice --headless --nologo --nof
irststartwizard --convert-to pdf --outdi
r ~/Desktop/tool/PDF/ *

#Input filesフォルダからdoneフォルダにファ
イルを移動。（しないと次の実行で無駄にまた処理す
る）
mv * ../done

#出力したPDFをWebサーバーにコピーする。
cp -p ../PDF/* /Library/WebServer/Docu
ments/pdf/
```

現在でも学校経営シートは教育委員会の Web ページに全校まとめて掲載されている。ここに各学校が前もってリンクを貼っておくのである。

経営シートだけでなく、経営計画、経営報告など、各学校の教員が特に関心を示さない内容が自動でアップされるようになれば、アップ忘れもなくなる。また、入試の倍率は、アップしてもよい時間が、報道機関に公表された後となっているため、深夜となり、しかもその時間が未定である。そのため情報の公開はどうしても次の日の朝になる。したがって一刻も早く情報を入手したい受検生やその保護者にとっては不都合である。情報を公開してもよい時間になれば東京都教育委員会が公開することで各学校のサイトがアップされることになれば、受検生にとって好都合である。まして、東京都教育委員会のページで他校の倍率等も同時に調べられるとなれば、なおさらである。

システムの変更がなされるまでの間、学校現場は Web ページにアップする内容を時系列で表として、年間の予定とすることで、対応できるのではないだろうか。

このシステムにおける利点は学校のみにあるのではない。東京都教育委員会にとっては各学校の Web ページをモニタリングする回数が大幅に減少する。そのため仕事量が削減できるであろう。ステークホルダにとっても調査したい内容が一か所にまとまっていることは、他校との比較が容易で便利であるといえよう。学校にとっては、アップしなければならないと決められているページへの意識が他のページに向けることができることにつながる。それは自由度が増すと言い換えることができる。自由度が増したことにより Web 更新というハードルが下がり、更新の頻度が増大すると考えられる。

必ず載せるべきといわれているものを期日通りに載せていくことにより、各学校の Web ページの信頼性が上がる。最終的に各学校は限られたステークホルダを閲覧の対象とするのではなく、様々なステークホルダを閲覧の対象者ととらえ、閲覧者にとって使いやすいページになるようにするべきである。学校 Web ページの重要性を学校教職員のかなりの人が認識し、積極的に関わるようなるまでの間、学校現場と教育委員会が共に協力をしあって、少ない労力で達成できるシステムづくりが要求されている。

7. 参考文献

1 豊福晋平. (2016). 自ら語れば学校はもっと愛される. プラネクサス.
2 NTT ネットワーク. (2009 年 9 月). 都立学校 ICT ネットワークシステム CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）操作マニュアル.
3 高見　茂. (2010). NPM(New Public Management)の導入と行財政改革の新展開. 日本教育行政学会年報.

ⓒ2016 Information Processing Society of Japan